

【公開文書】

臨床研究「新生児におけるエコーガイド下動脈ライン留置術の有用性の検討」について

筑波大学附属病院小児科では、標題の臨床研究を実施しております。

本研究の概要は以下のとおりです。

① 研究の目的

エコーガイド下のカテーテル留置術は1984年にLeglerらがエコーガイド下の中心静脈穿刺法を報告して以来、徐々にエビデンスが確立されてきました。現在では成人・小児ともに中心静脈カテーテルを留置する際にはエコーガイド下で行うことが推奨されています¹⁾。末梢動脈ライン留置においてもエコーガイドの有用性が報告され始めています。乳児期以降の小児におけるエコーガイド下動脈ライン留置術に関するメタアナリシスでは従来法と比較して、成功率を改善することを示唆しました²⁾。2018年にはヨーロッパ小児新生児集中治療学会のPoint of Care Ultrasound (POCUS)のガイドラインで小児における末梢動脈ライン留置においてエコーガイドは用いることが推奨されました³⁾。新生児医療においても超音波検査は日常的に使用され、心機能をはじめとした諸臓器の評価からPOCUSまで幅広い分野で使用されています。しかし、満期産児ではエコーガイド下末梢動脈ライン留置術の検討はあるものの、極低出生体重児を含めた報告は我々が調べた限りありません。当院NICUでの動脈ライン留置は、血管透光ライトと触診を用いた方法(従来法)で実施してきましたが、2021年からエコーガイド下のカテーテル留置術を導入しました。当院NICUに入院していた極低出生体重児を含めた新生児に対して、従来法で動脈ライン留置に複数回失敗した場合や、担当医が最初から従来法での留置が困難であると判断した場合にエコーガイド下動脈ライン留置術を施行することとし、徐々に実施件数を増やしてきました。今回、我々が施行した新生児におけるエコーガイド下末梢動脈ライン留置術の成績を後方視的に検討することで、極低出生体重児を含めた新生児におけるエコーガイド下末梢動脈ライン留置術の有用性を検討します。

② 研究対象者

2021年4月～2022年10月に当院NICUに入院し、エコーガイド下で動脈ライン留置を施行された患者さんを対象としました。ただし、エコーガイド下末梢動脈ライン留置時に日齢28を越えた患者さんは除外しました。

③ 研究期間：倫理審査委員会承認後～2024年3月31日まで

④ 研究の方法

エコーガイド下動脈ライン留置術施行時における、児の日齢、修正週数、体重、ならびに施行前の従来法での穿刺失敗の有無、留置までの穿刺回数などについて、診療記録を後方視的に調査します。

⑤ 試料・情報の項目

診療記録等

⑥ 試料・情報の第三者への提供について
なし

⑦ 試料・情報の管理について責任を有する者

筑波大学附属病院 研究代表者：竹内秀輔(小児科)

⑧ 本研究への参加を希望されない場合

患者さんやご家族（ご遺族）が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

⑨ 問い合わせ連絡先

筑波大学附属病院：〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

所属・担当者名：小児科 竹内秀輔

電話：029-853-5635 FAX：083-853-3492 対応可能時間：平日 8：30～17：15

小児科秘書室より小児科 竹内を呼び出してください。